

第6学年国語科学習指導案

1 単元名 学習したことを生かして 「海の命」

2 単元目標

- 漁師としての技術だけでなく、海の命や家族を大切にしながら生きていった主人公の生き方を読み取り、自分の生き方について考えることができる。
- 主人公太一の生き方を読み取るために、「場面と場面をつなぐ読み方」「対比表現を読む読み方」「呼称の変化を読む読み方」を理解し、身につけることができるようにする。

3 単元の授業課題

- 子どもが自分の考えをもったり、見直したりする活動の時間を取っている。(⑥)
- 子どもが気付いていない点に目を向け、考えをゆさぶる発問を工夫している。(⑳)
- めあてに対応したまとめが分かるように板書している。(㉑)
- 子どもが自分の考えの深まりを書けるような手立ての工夫をしている。(㉒)

4 子どもの実態と授業課題

- 本学級の子どもたちは、これまでの物語文の学習で、主人公の言動に着目してキーワードをたどりながら気持ちの変化を読み取ったり、対比的な叙述の書き表し方に目を向けたりしながら、「心の成長」「命のつながり」「生の喜び」といった主題を読み取る学習を繰り返してきた。しかし、話し合い後半になると挙手が一部の子どもに偏る傾向が見られる。前時または本時の中で、自分の考えをしっかりとまとめるための手立てが必要であると考え。また、学習のまとめとして、板書を見ながら分かったことを書くことはできるが、自分の読みの深まりを友達の発表の良さを認めながら書ける子はまだ半数しかいない。話し合いの初めと後の深まりが全員書けるような手立てを工夫したい。
- これまでの授業工夫改善の成果と課題から、本単元では、子どもが気付いていない点に目を向け、考えをゆさぶる発問を工夫すること(⑳)、めあてに対応したまとめが分かるように板書すること(㉑)の2つを重点的な授業課題として考えている。

話し合い後半、一部の子どもだけの挙手で話し合いが進んでいく要因としては、子ども全員が自分の考えに自信をもたないまま話し合いが進行していることが挙げられる。たとえ難しい内容であっても、教師が子どもが気づいていない点に目を向けさせて考えをゆさぶり、考えるための時間を確保できれば、全員が自分の考えをしっかりともち、話し合いに臨むことができるはずである。またその考えを、めあてとまとめが対応した構造的な板書に位置づけることで、全員が読みの深まりを書けるようにしていきたい。

このようにして自分の考えをもって話し合いに参加し、自分の読みの深まりを実感することで、学習の達成感を全員に味わうことができるようにしたい。

5 教材の考え方と授業の工夫改善

本教材は、目標としていたもぐり漁師である父と、弟子に入った一本づり漁師である与吉じいさの考えの間で葛藤しながら自分の生き方を見だし、その生き方を生涯続けた太一の姿が描かれた物語である。場面は大きく6つで構成され、父の敵であるクエを打たずに一本づり漁師としての生き方を選んだ場面が大きな転換点である。子どもたちからは、①「なぜクエを打たなかったのか。」②『「村一番の漁師であり続けた。」とはどんな生き方なのか』という疑問が出されると予想される。そこで予見を取る過程ではまず、太一の生き方を、行動面と心情面に分けて場面毎に年表にまとめ、全員にあらすじをとらえさせる。そのあらすじをもとに、太一がどのような生き方をしたのか短くまとめさせる。その際には、考えを作るための時間の保障と、学習プリントを工夫することで、全員に考えを持たせて話し合いに臨ませたい。疑問①②に対する自分の考えをもたせる際にも、中心文への問いかけを具体化してはっきりと課題意識を持たせ、どの文や言葉を根拠としてたどり結んでいけば考えがまとまりそうか、個別に支援を行っていきたい。書き込みをもとにした話し合いでは、代表児の提案を自分の考えと比べさせて自分の立場をはっきりさせ、考えや根拠の共通点・相違点を明らかにしながら話し合いを展開していく。話し合いでは、太一が夢をあきらめたわけを、与吉じいさの教えとつないで読み取ったり、太一の生き方を、家族構成や母の変容など、子どもが気付いていない点に目を向けさせて考えを見直す時間を取って読み取ったりする。このようにして、太一は「海の命」を大事にしながらも、「家族の幸せ」を優先する生き方を生涯続けたことを読み取らせたい。

6 単元の学習計画（全10時間）

次時	学 習 活 動 と 内 容	指導上の留意点（※工夫改善の項目）
読み通しのめあて	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">題名と冒頭をつないで場面設定と人物像を読み，読み通しのめあてをつくる。</p> <p>1 既習学習を振り返り，学習の構えをもつ。</p> <p>2 題名から分かることや疑問を出し合い，冒頭を読む視点を持つ。</p> <p>3 冒頭を読む。 (1) 場面設定を読む。 (2) 太一と父の人物像を読む。</p> <p>4 読み通しのめあてをつくる。 — 読み通しのめあて — 父が死んだ後，太一はどのように生きていくのだろう。 (「海の命」と，どんな関係があるのだろう。)</p>	<p>○ 単元名をもとにこれまでの物語を振り返り，主題に目を向けさせる。</p> <p>○ 「命」から生き物を想像させたり「の」に着目させたりして疑問を引き出し，冒頭を読む意欲を持たせる。</p> <p>○ 一行空きを手がかりに冒頭を探させ，音読させる。</p> <p>○ 文末表現に着目させ，太一が父のような漁師になりたいという夢を強く持っていることに気付かせる。</p> <p>※ 太一の年齢を考えさせ，同年代の主人公がどのような生き方をする話なのか，興味を持たせる。(20)</p>
予見	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">全文を読んで太一の行動面と心情面からあらすじをとらえ，予見を考える。</p> <p>1 読み通しのめあてをもとに，全文を読む。</p> <p>2 難語句の意味を調べ，音読の練習をする。</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>3 時を表す言葉をもとに，文章構成をつかむ。</p> <p>4 あらすじをつかむ。 (1) 場面毎の，太一のおよその年齢を考える。 (2) 生き方(行動)と考え方(心情)にわけ，サイドラインを引く。 (3) サイドラインをもとに，生き方を短くまとめる。</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>(4) あらすじについて話し合い，年表にまとめる。</p> <p>5 まとめたあらすじをもとに，予見を短く書きまとめる。 (予想される予見の方向)</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ずっと追いつけた，父のかたきであるクエを打つことをやめ，村一番の漁師として生き続けた。</p>	<p>※ 前時に生み出した読み通しのめあてを掲示しておき，本時のめあてを意識づける。(19)</p> <p>○ 音読の仕方や難語句について，範読しながら確かめる。</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>○ 場面を6つに分け，太一の年齢も想像させることで，年月の流れを分かりやすくする。</p> <p>※ 場面毎に時間を区切り，全員があらすじを書けるようにする。(6)</p> <p>○ サイドラインを引いた文の中から，太一の生き方に関するキーワードを抜き出し，それをまとめて自分の言葉で言い換えて書きまとめられるような学習プリントを準備する。</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>○ 場面毎にあらすじを短くまとめ，それをつなぐことで全体のあらすじをとらえやすくする。</p> <p>○ 字数を限定することで，太一の生き方に直接つながる場面や文に目を向けさせる。</p>

<p>学習計画</p> <p>5 / 10</p>	<p>予見を話し合い、読み確かめるための学習計画を立てる。</p> <p>1 予見を話し合う。</p> <p>2 予見の話し合いをもとに、学習計画を立てる。 (1) 太一の生き方が分かる文をはっきりさせながら、クエを打たなかった場面を、太一の生き方の転換点として押さえる。 (2) はっきりしないこと、分からないことを話し合い、読み確かめの視点を生み出す。</p> <p>読み確かめること</p> <p>① 太一はなぜ、クエを打たなかったのか。 ② 「村一番の漁師であり続けた」から、太一がどんな生き方をしたと言えるのか。</p>	<p>※ 事前に予見の傾向を分析してカルテ化し、組み立てた展開をもとに話し合いを進め、自分の考えは誰に似ているか分かるよう整理しながら板書する。(⑩)</p> <p>※ どの文を根拠として選んだのかが分かるように指名していき、中心文を明らかにしていく。(⑪)</p> <p>※ 「太一の生き方が一番よく分かるのは？」と問うことで「太一は、村一番の漁師であり続けた。」の一文に課題意識を持たせる。(⑫)</p> <p>○ ①②の中心文の、どの言葉に着目すれば太一の生き方がはっきりしそうか考える時間を確保し、書き込みの意欲へとつなぐ。</p>
<p>読み確かめ</p> <p>6 / 10</p> <p>①</p>	<p>与吉じいさの教えとつなぎ、太一がなぜクエを打たなかったのか読み確かめる。</p> <p>1 太一がなぜクエを打たなかったかについて自分の考えを書く。 〈書き込みの視点〉</p> <p>○ 「本当の村一番の漁師」とはどんな漁師か。 ○ なぜクエのことを「おとう」と呼んだのか。 ○ 「クエ」や「瀬の主」ではなく、「海の命」だと思えたのはなぜか。</p> <p>2 代表児の考えを聞き、自分の考えと比べる。</p> <p>3 書き込みをもとに話し合う。 (1) 本当の村一番の漁師とはどんな漁師なのか話し合う。 ・ 魚を捕る技術が素晴らしい漁師 ・ 父を超えるもぐり漁師</p> <p>(2) クエのことを「おとう」と呼んだわけについて話し合う。 ・ 与吉じいさ同様、海に帰ったから ・ 父の姿と重なったから</p> <p>(3) 「海の命」と思えた呼称の変化のわけを再度考えて直し、付加修正する。</p> <p>(4) 見直した書き込みをもとに話し合う。 ・ 父のかたきでクエを打つと、与吉じいさの教えにそむくことになるから。 ・ クエは、海の命そのもの(象徴)だと思ったから。</p> <p>4 学習のまとめをする。</p>	<p>○ 学習計画をもとに、父のかたきであるクエを打たなかった理由の根拠となる箇所を、自分なりの解釈をしながらたどり結び、自分の考えを作って書きまとめさせる。</p> <p>○ 中心文への書き込みをもとに、自分の考えが書きまとめられるようなプリントを作成しておく。</p> <p>○ 全員の考えを分析・グループ化して、代表児を決めておく。</p> <p>○ 代表児の考えに似ているか否か問い、自分の立場をはっきりさせる。</p> <p>※ 与吉じいさから「おまえはもう村一番の漁師だよ。」と言われても夢を追い続けた太一の行動に気付かせ、父を超えようとしていたことを読み取らせる。(⑬)</p> <p>※ 「どうしてそう考えたの？」と問い返すことで箇所と解釈を引き出し、似ている考えを続けさせて板書に整理していく。(⑭)</p> <p>※ 与吉じいさの教えと、太一の夢とをつないで考えさせ、自分の書き込みを見直すようにする。(⑮)</p> <p>※ 与吉じいさの教えと太一の行動をつなぎ、海の命を大事にしようとして心に決めた太一の心情を捉えさせる。(⑯⑰)</p> <p>○ 自分の考えの深まりと、夢をあきらめる生き方についての自分の考えの2点で感想を書きまとめるようにする。(⑱)</p>

読み 確 か め ② 本 時	8 太一が夢をあきらめた場面や家族の姿とつなぎ、太一が「海の命」と家族の幸せを大事にする生き方を生涯続けたことを読み取る。 9 1 「村一番の漁師であり続けた」から分かる太一の生き方について自分の考えを書く。 10 〈書き込みの視点〉 ○「村一番の漁師」 とはどんな漁師か。 ○「あり続けた」とはどのくらいか。	※ 学習計画をもとに、「村一番の漁師」とはどんな漁師なのか、「あり続けた。」とはどういうことかを、根拠を明らかにして解釈をしながら自分の考えをつくって書きまとめさせる。(⑥) ※ 中心文への書き込みをもとに、自分の考えが書きまとめられるようなプリントを作成する。
	2 代表児の考えを聞き、自分の考えと比べる。 3 書き込みをもとに話し合う。 (1) 「村一番の漁師」とは、何漁師か。 ・一本づり漁師 (2) 何が「村一番」なのか。 ・漁師としての腕前 ・与吉じいさの教えを守り、海の命を大事に漁を続けたこと (3) 「村のむすめとけっこんし、～になった。」とつないで、何が「村一番」なのか見直す。 (4) 見直した考えをもとに、「村一番」の中身を深める。 ・家族を大事にした生き方 (5) 「あり続けた」とはどのくらいの年月なのか。 4 学習のまとめをする。 (1) 代表児の考えを整理して、太一の生き方をまとめる。 (2) 「今日の学習で」を書く。	○ 全員の考えを分析・グループ化して、代表児を決めておく。 ○ 代表児の考えに似ているか否か問い、自分の立場をはっきりさせる。 ※ 太一が夢をあきらめた場面とつないで考えさせ、父のようなもぐり漁師ではなく、一本づり漁師の生き方を選んだことを読み取らせる。(⑩) ※ 一本づり漁師を選んだことから、与吉じいさの教えを守ろうとしていることを捉えさせる。(⑩) ○ 中心文の前文「やがて太一は、～おばあさんになった。」を根拠として「家族の幸せ」と考えた子を代表児として発表させる。 ※ 子どもを四人育てたことからその年数、太一の母の「心配」から「安心」へと変わった気持ちの変容に目を向けさせ、太一は、家族の幸せのために一本づり漁師を続ける生き方を選んだことを読み取らせる。(⑩⑨) ※ 一生涯同じ生き方を続けたことを確かめ、「村一番」の読みを深める。(⑩⑨) ※ 太一は、「腕前や海の命を大事にできること」だけでなく、「家族の幸せ」までも考えて生き方を変えた事を板書で整理しながら確かめ、自分の考えの深まりを書きまとめるようにする。(⑩⑨)
読 み の 方 ま の と ま め と め	10 読み確かめた太一の生き方と読み方を振り返り、主題について考える。 10 1 太一の生き方を通して、作品の主題を考える。 (1) 題名「海の命」について話し合う。 (2) 太一の生き方に対する自分の考えを書く。 2 単元を振り返る。 (1) 作者の表現の工夫について考える。 (2) 読み方を振り返る。	※ 冒頭に注目させ、「海の命」は、海に住む生き物の命、すなわち「自然」と、そこに生きる「人々」の2つを表していることを捉えさせ、それらが共に生きることを「共生」という言葉でまとめる。(⑩) ※ なぜ太一の母親の叙述だけが2カ所あるのか考えさせ、優れた叙述の工夫に気づかせる。(⑩) ※ 既習掲示物から、これまでの学習で使った読み方を振り返らせる。(⑩)

7 本時（8 / 10）読み確かめ②

8 本時の目標

- 漁師としての腕前を上げるだけでなく、与吉じいさの教えを守って「海の命」を大事にし、さらに家族の幸せのために一本づり漁師を生涯続けた太一の生き方を読み確かめることができる。
- 太一の生き方を読み取るために、夢をあきらめた場面を根拠にしたり、「あり続けた。」をキーワードとして子どもを育てた年月を想像したり、おばあさんの気持ちを前の場面と対比させたりして、「前の場面とつなぐ読み方」を身に付けることができる。

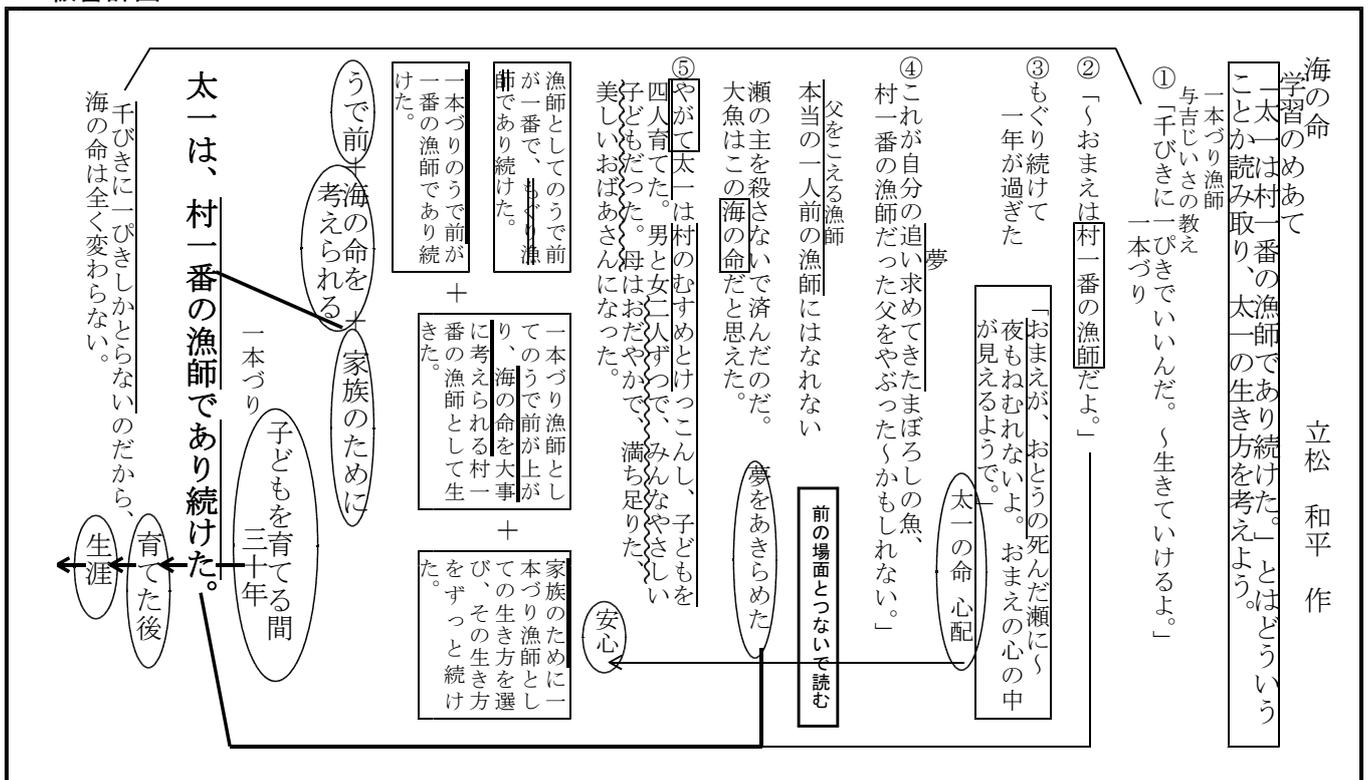
9 本時の授業課題

- 子どもが気付いていない点に目を向け、考えをゆさぶる発問を工夫している。(20)
- めあてに対応したまとめが分かるように板書している。(9)

10 本時の授業の工夫改善の考え方

- 前時まで子どもたちは、太一の生き方が分かる箇所として、与吉じいさの教えや夢をあきらめた場面などをつなぎ、自分なりの解釈をしながらとどろ結び、太一の生き方を書きまとめている。本時は、その書き込みをもとに話し合い、もぐり漁師になる夢を捨て、一本づり漁師としての腕前を上げただけでなく、「海の命」や「家族の幸せ」を大事にする生き方を選んだ太一の姿を読み取る場面である。
- 本時の授業では、まず、代表児に自分が読み取った太一の生き方を発表させる。他の子どもたちには、自分の考えと比べながら聞くよう指示し、全員の立場をはっきりさせて話し合いに臨ませる。
代表児の発表の後、太一はもぐり漁師と一本づり漁師のどちらを選んだのか話し合う。前々時の話し合いを想起させ、夢をあきらめたわけとつなぎながら一本づり漁師の道を選んだことを確かめる。
次に「村一番」の中身を読み確かめる。「漁師としての腕前」について確かめた後、「海の命を大事にする」という生き方を読み取った子どもを代表児として発表させる。なぜそう言えるのかを、与吉じいさの教えや前々時に読み取った夢をあきらめたわけとつなぎながら考えさせ、読み深める。
さらに、「家族の幸せ」を読み取った子を代表児として発表させる。根拠となる文「やがて太一は村のむずめと〜美しいおばあさんになった。」に目を向けさせ、「美しいおばあさんとはどういうことか」の2点で書き込みをさせて話し合う。「美しい」とは、3の場面の太一への母の「心配」が、「安心」へと変容していることを捉えさせ、家族の幸せのために夢をあきらめ、30年以上も一本づり漁師を続けたことを読み取らせる。
最後に、読み深まった考えを読み方を確認しながら整理し、太一の生き方を、「一本づり漁師としての腕前を上げ、海の命を大切にしながらも家族の幸せを大事にする生き方を生涯続けた。」とまとめる。「今日の学習で」には、話し合い前の自分の考えの深まりを、誰のどんな考えがよかったかを入れながら板書を見て書くようにすることで、読みの深まりを実感できるようにしたい。

11 板書計画



12 本時の展開

学 習 活 動	指導上の留意点（※工夫改善の項目） ○ 準
<p>1 本時のめあてを確かめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>— 学習のめあて —</p> <p>「太一は村一番の漁師であり続けた。」とはどういうことか読み取り、太一の生き方を考えよう。</p> </div> <p>2 代表児の考えを聞く。</p> <p>3 書き込みをもとに話し合う。</p> <p>(1) 「村一番の漁師」とは、何漁師か読み確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一本づり漁師 <p>(2) 何が「村一番」なのか読み確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁師としての腕前 ・海の命を大事にして漁を続けたこと <p>(3) 中心文の前文とつないで、何が「村一番」なのか見直して書き込む。</p> <p>(4) 見直した考えをもとに、「村一番」の中身を読み深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族を大事にした生き方 <p>(5) 「あり続けた」とはどのくらいの年月なのか読み深める。</p> <p>4 学習のまとめをする。</p> <p>(1) 太一の生き方をまとめ、代表児の考えを整理する。</p> <p>(2) 「今日の学習で」を書く。</p>	<p>○ 学習計画表と前時の掲示物をもとに本時のめあてを確認する。</p> <p>○ 自分の書き込みを見直させ、自分の読み確かめの課題をはっきりと持たせる。</p> <p>○ 話し合いの 番とまとめ方を確かめ、本時の見通しを持たせる。</p> <p>○ 全員の考えを分析・グループ化して、代表児を決めておく。</p> <p>○ 代表児の考えと似ているか聞くよう指示し、自分の立場をはっきりさせる。</p> <p>○ 太一が夢をあきらめた場面とつないで考えさせ、父のようなもぐり漁師ではなく、一本づり漁師の生き方を選んだことを読み取らせる。</p> <p>○ 一本づり漁師を選んだことから、与吉じいさの教えを守ろうとしていることを捉えさせ、「海の命を大事にした」ことを読み取らせる。</p> <p>○ 中心文の前文「やがて太一は、～おばあさんになった。」を根拠として選んだ児 を指名し、全員でそのわけを考えさせる。 ※「美しい」とは何を表しているのか、 たな視点を示して考えさせる。(㉑)</p> <p>※「美しいおばあさん」とは、太一の母の、「心配」が「安心」に変わった気持ちの変容を表していることを対比的に読み取らせ、太一が「家族の幸せのための生き方を選んだ」ことを捉えさせる。(㉒)</p> <p>※ たな視点として、子どもを育てるのにかかる年数や育てた後の太一の生き方を考えさせ、「あり続けた。」を具体的に捉えることができるようにする。(㉓)</p> <p>※「村一番の漁師」「あり続けた」について深まった読みを板書で整理しながら太一の生き方をまとめ、めあてに対応させる。(㉔)</p> <p>○ 自分の読み確かめの課題にあった書きまとめができるよう、書き出しや文末表現の を示す。</p> <p>○ 太一の生き方を、自分の考えの深まりを入れながら書きまとめることができる。</p>